

実施年度	実施主体	対象獣種
R 8 ～ R 9	三条市鳥獣被害防止対策協議会	イノシシ

現状・課題

イノシシによる農林水産業への被害が増加傾向であるものの、人口減少や高齢化により、効果的な対策が実施できていない状況にある。このため、ICT機器を活用し効率的・効果的に対策を進めるとともに、本事業で実施するスマート捕獲の取組について、県内市町村で広く普及することが求められる。

事業概要

効果的な捕獲体制モデルを確立するとともに、ICT活用捕獲チームの育成やレベル向上を図るため、

- ・ドローンやカメラにより被害状況や加害個体の行動等を把握し、GISへデータベース化、
- ・把握したデータを踏まえた罠の設置や捕獲探知機を活用した効率的な見回り、
- ・AIやデータ処理システム等を活用した対策の評価等、調査から捕獲後の効果検証までの取組を一貫して実施。

活用機器 ※交付金活用外の機器を含む

- ・ドローン
- ・トレイルカメラ、サーマルカメラ
- ・捕獲通知機器

モデル地区の普及範囲

三条市内他地区で普及。県内他地区からの見学等も受け入れ（R 8 ～ R 9）

【イメージ】

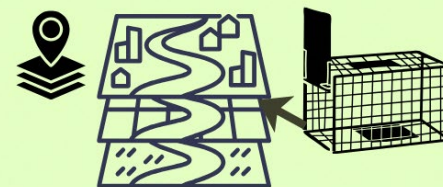
①現状把握

ドローン、トレイルカメラを用いて加害個体の行動を把握し、可視化



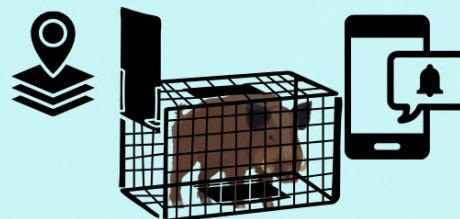
②GISを用い行動把握・効果的な罠設置

効果的に複数の個体を捕獲するため、AI活用や有識者の助言を受けて罠設置場所、順序等の検討



③捕獲

捕獲探知機を用い見回りを省力化
捕獲場所をGPSを用い記録



④捕獲後の状況把握

トレイルカメラで捕獲後の稼働時の確認
ドローンで捕獲後の行動の変化を把握
AI技術で振り返りを実施し、効果的な捕獲場所の選定を行う

